

授業概要

私たちが人間の心を理解し、心の健康を促進していくためには、人間を取り巻く家庭・集団・社会などの「コミュニティ」を視野に入れてアプローチする必要がある。コミュニティ心理学には 1) 集団を対象に、2) 治療のみならず、疾患や問題行動の予防を重視し、3) 当事者だけでなく、その周囲の関係者への支援を重視する、という特徴がある。この講義ではコミュニティにおけるメンタルヘルスやウェルビーイングの増進、心理社会的問題の改善や解決に向けたアプローチについて紹介する。個人とコミュニティ双方の幸福が調和した状態を目指す立場から、コミュニティで生起する問題を理解し、解決や予防に向けた方策について講義する。

授業計画

第 1 回	コミュニティ心理学とは何か？
第 2 回	コミュニティ心理学の理念と発想
第 3 回	コミュニティ心理学の歴史とアプローチ
第 4 回	予防
第 5 回	ストレスとコーピング
第 6 回	危機介入とコンサルテーション
第 7 回	ソーシャルサポートとセルフヘルプ
第 8 回	エンパワーメント
第 9 回	コミュニティ感覚と市民参加
第 10 回	家庭・地域における実践
第 11 回	学校・教育の場における実践
第 12 回	産業・職場における実践
第 13 回	医療・保健・福祉の場における実践
第 14 回	理論と実践の協働：新たな社会問題への取り組み
第 15 回	コミュニティ心理学の研究方法：量的研究と質的研究によるアプローチ

到達目標

- コミュニティ心理学における理論やアプローチを理解すること。
- 社会問題や身近なできごとに対してコミュニティ心理学の視点から考察できること。
- さまざまな属性を持つ人々が共生し、安心して生きられるコミュニティのあり方を構想できること。

履修上の注意

スライドを用いた講義を中心に進めるが、映像資料や新聞記事を用いて自ら考える「ワーク」、意見発表などの体験学習的な要素も取り入れる。そのため受講者には受身的に講義を聴くだけではなく、主体的・能動的な態度をもって講義に臨んで欲しい。

予習・復習

【予習】講義内容に含まれるキーワードについて調べること。

【復習】講義で用いた資料を読み返すこと。

上記に加えて授業内で紹介する関連文献を用いて、各自が予習と発展的学習に努めること。

評価方法

期末レポート（60%）と各授業のリアクションペーパー（40%）によって総合的に評価する。

テキスト

特に指定しない。講義は配布資料に基づいて進める。

また、参考図書は講義内でその都度紹介する予定である。